

## 1. はじめに～読書に関するデータから

「大学生 1日あたり 読書0分4割超 大学生協連、全国調査」(『朝日新聞』2014年4月2日夕刊) → 「学生生活実態調査の概要報告」(2015年)

<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 2016年5月19日閲覧

読書アンケート結果

読書に関するデータ(日本の出版点数・書店数、読書の国際ランキング、読書の日米大学比較など)

学生はなぜ読書をしないのだろうか？

## 2. 読書の目的

◎大学での教養・専門を身に付けるためには、不可欠：教科書・参考書はもとより、知識を広げ教養を高めるための本を読むことも大切。

◎「読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられる。すると、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」酒井邦嘉『脳を鍛える読書』、実業之日本社、2017年)

○「読書はしてもしなくてもいいものではなく、ぜひとも習慣化すべき『技』だ」(齋藤孝『読書力』、岩波新書、2002年)

▲「読書とは他人に考えもらうことである」(ショーペンハウアー「読書について」)

▲「本をありがたがって、読みすぎると、心の近眼になって、ものが良く見えなくなる」＝「読書メタボリックシンドローム型近眼」(外山滋比古『乱読のセレンディピティ』、扶桑社文庫、2016年)

△「本は読まなくてもいい、本は親しむもの」、本＝「共通の大切な記憶」

(長田弘『読書からはじまる』、日本放送協会出版、2006年)

⇒読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること

### ギュンター・グラス『玉ねぎの皮をむきながら』

「彼は読書だけはずっと辛抱強く継続してやってきた。(中略)彼にとって本は小さいころから、小さな部屋にはなかった遮断板であり、別の世界への覗き穴だった」(ギュンター・グラス『玉

ねぎの皮をむきながら』、集英社、2008年、34～35頁)

### カフカ『夢・アフォーリズム・詩』

「読んでいる本が、頭蓋のてっぺんに拳の一撃を加えて目覚めさせることができないとしたら、それでなんのために私たちは本を読むのか。(中略)本は、私たちの内部の凍結した海を砕く斧でなくてはならない」(カフカ『夢・アフォーリズム・詩』、平凡社、1996年)

### ペナック『ペナック先生の愉快的読書法』

「本を読む時間は、愛する時間と同じように、人生の時間を広げる。もし時間の使い方という観点から愛というものを考えなければならぬとしたら、いったい誰がわざわざ愛に手を出そうとするだろうか。誰が恋する時間を持つというのか。しかし愛する時間を持たない恋人など見たことがないではないか」(ダニエル・ペナック『ペナック先生の愉快的読書法』、藤原書店、2006年、143頁)

### 平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』

「慌ただしい日々の生活の中に、自分自身で作るゆったりとした読書の時間は、どんなにささやかであっても、かけがえのない人生のゆとりだろう。スロー・フードが提唱されてすでに久しいが、食という原始的な欲求が豊かに満たされるべきであるならば、読書という知的な欲求もまた、同様の豊かさで満たされるべきだ。(中略)何よりも、ゆっくり時間をかけさえすれば、読書は楽しい」(平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』、PHP新書、2006年、8頁)

➡ 読書はただ情報や知識を得るためだけのものではない!

## 3. 読書のコツ

「音読」「会読」「濫読」「再読・反復読」「積読」「全集を読め」

「アルファ―読みとベータ―読み」(外山滋比古『読みの整理学』、ちくま文庫、2007年)

「三色ボールペン方式」(齊藤孝)

「多忙を言い訳にしない」(長田弘『本という不思議』、みすず書房、1999年)

「本はゆっくり読むと、速く読める」(井上ひさし『本の運命』、文春文庫、2000年)

「三上」: 馬上、枕上、廁上

⇒○習慣化する! 日々の生活の中で続ける、食事するのと同様?!

○ギアチェンジして読む! 速読、平読、精読を使い分ける!

○アウトプットをしながら! 読書しっぱなしではなくて、読んだらそのことをもとに考えたことを書いたり、人に話したりしてみる。

## 4. 読書のきっかけ

徳島大学附属図書館での取り組み、「ライブラリーワークショップ」や「阿波ビブリオバトルサポータ」などに参加してみる。

学生・社会人共同参加の読書サークル、まちライブラリーや金曜の会(「徳島読書人が選ぶこた

わりの 31 冊」ブックリスト作成プロジェクト) などに参加する。

➔ 読書の「場」を持つとう!

## 5. 「読書レポート」について

締め切り：6月2日(金)

読書レポートの提出先事前調査(manaba)

SSS 学習支援内容・アドバイザー (附属図書館)：井戸先生らによる「レポートの書き方・ドイツ語」

## 6. おわりに

### ◎この授業の課題

(詳細は後日、知らせる。この回の課題については本を読む必要があるので、あらかじめ周知しておく)

「以下の課題図書のうち一冊を読むか以下の読書イベントに参加したうえで、大学時代に実践したいと考える読書の仕方や読書活動を書きなさい。」

#### 課題図書

井上ひさし『本の運命』、文春文庫、2000年

長田弘『読書からはじまる』、日本放送協会出版、2006年

小林秀雄『読書について』、中央公論社、2013年

齋藤孝『読書力』、岩波書店、2002年

ショーペンハウアー『読書について 他二編』、岩波文庫、1983年

外山滋比古『読みの整理学』、ちくま文庫、2007年

平野啓一郎『本の読み方～スロー・リーディング』、PHP新書、2006年

茂木健一郎『脳をきたえる読書のしかた。』、マガジンハウス、2009年

依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに』、徳島新聞社、2010年

#### 読書イベント

まちライブラリー：facebook「まちライブラリー」参照

まちライブラリーとくしま：facebook「ビブリオラボとくしま」参照

金曜の会：facebook「とくしま読書コミュニケーション文化育成プロジェクト」参照